



第	3	章			
計	画	の			
基	本	的	な		
考	え	方			



1

計画の基本理念

第6次江南市総合計画ではめざす都市の将来像として、「地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市～生活・産業・文化の魅力があふれ、選ばれ続けるまち～」を掲げています。

本計画は、市や社会福祉協議会、地域、住民が一体となって支え合い・助け合いのまちづくりに取り組むことで、市民一人ひとりの「しあわせ」をつくり、いつまでも住み続けたい「選ばれ続けるまち」を実現することにつなげていくためのものです。

そこで、本計画の基本理念を次のとおりとします。

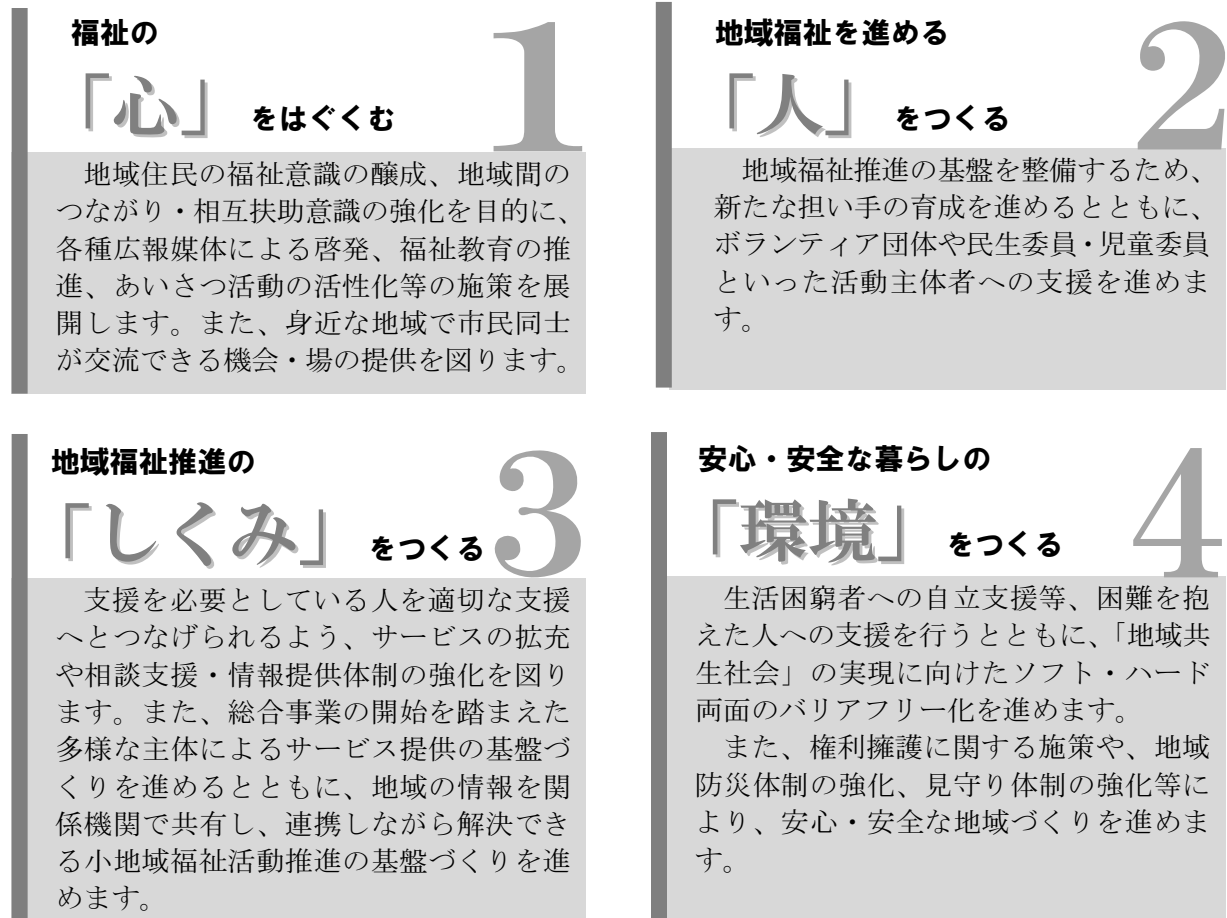
みんなで支え、みんなで育む

「しあわせ」なまち 江南

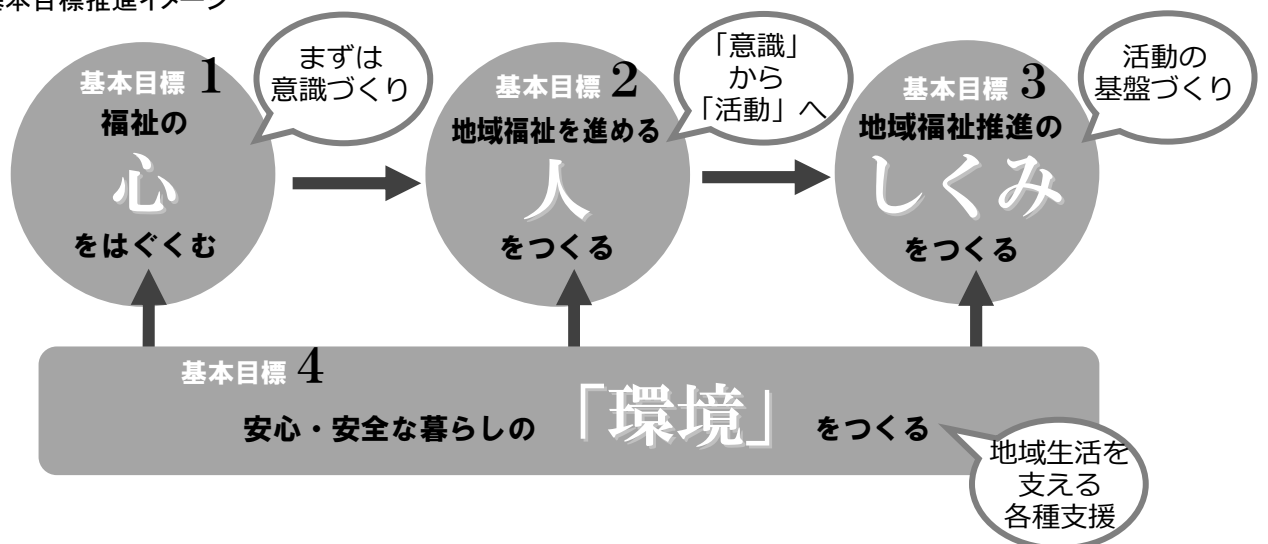
2 計画の基本目標と重点プロジェクト

(1) 計画の基本目標

基本理念として掲げる『みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち 江南』を達成するため、次の4つの基本目標に沿って施策を展開します。

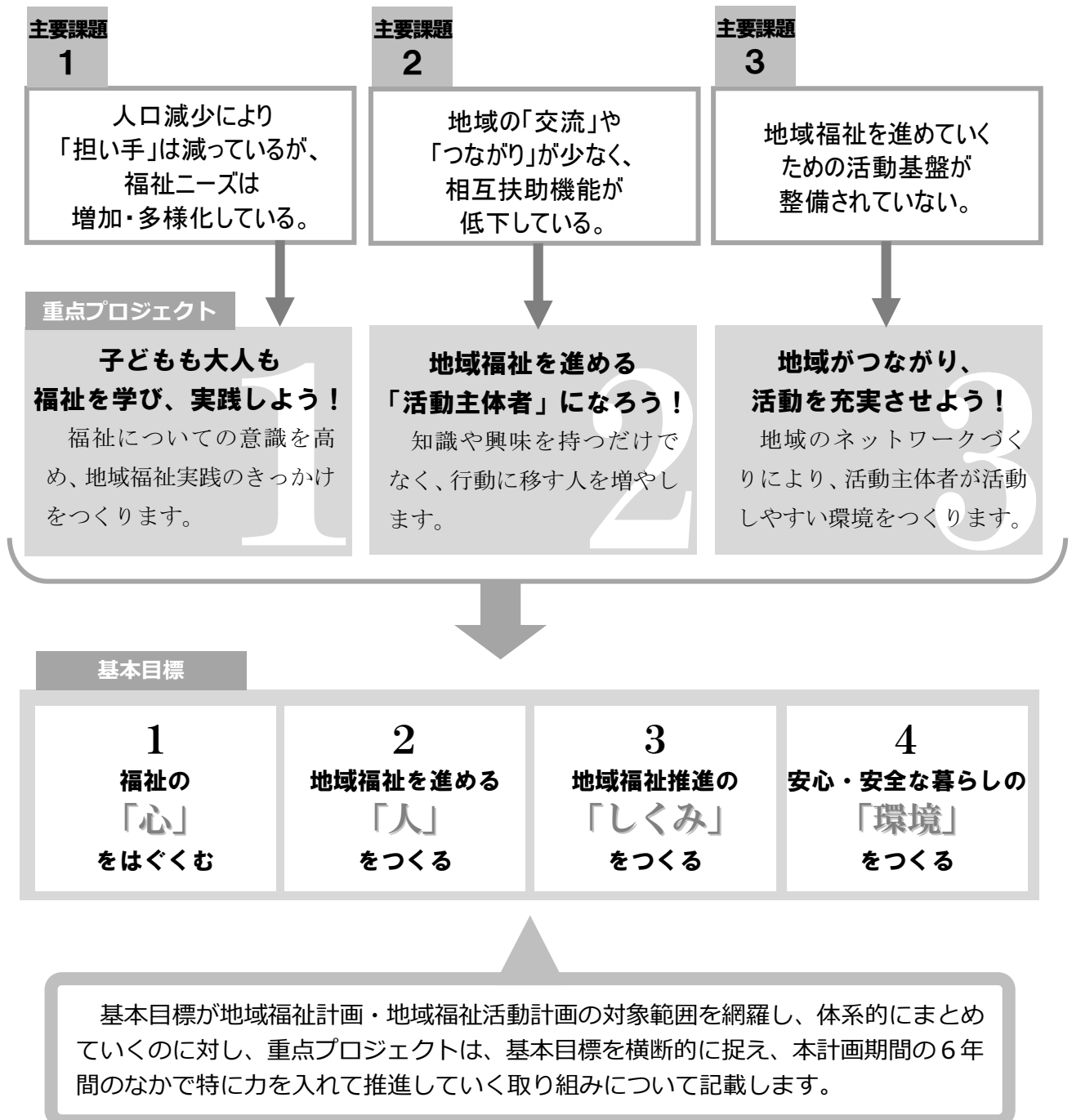


■基本目標推進イメージ



(2) 計画の重点プロジェクト

第2章「4 地域福祉を取り巻く主要課題」でまとめた本市の地域福祉を取り巻く主要課題を踏まえ、本計画の重点プロジェクトを以下のとおり設定します。



3

施策体系

基本理念

みんなで支え、みんなで育む 「しあわせ」なまち 江南

重点プロジェクト

子どもも大人も
福祉を学び、実践しよう！

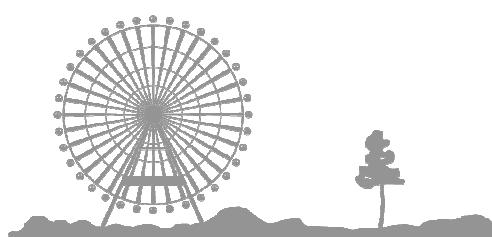
地域福祉を進める
「活動主体者」になろう！

地域がつながり、
活動を充実させよう！

基本目標	施策の方向性	施策
1 福祉の 「心」 をはぐくむ	1 地域福祉についての意識の醸成	1 地域福祉の重要性についての情報発信 2 福祉教育の推進
	2 地域の関係を深めるきっかけづくり	1 隣近所での顔の見える関係づくり
	3 市民が活動・交流できる場の提供	1 高齢者や障害のある人、子育て家庭の居場所づくり 2 多世代交流の促進
2 地域福祉を進める 「人」 をつくる	1 活動の担い手の育成	1 活動に取り組むきっかけづくり 2 新たな担い手の確保
	2 福祉を進める活動主体者への支援	1 市民・協働ステーション、ボランティアセンターの充実 2 地域福祉活動への支援
3 地域福祉推進の 「しくみ」 をつくる	1 必要な人に必要な支援を届けるための体制の充実	1 総合的な相談支援体制の充実 2 福祉サービスの利用支援
	2 多様な主体の参画促進	1 介護予防・健康づくりをきっかけとした地域活動の促進
	3 小地域福祉活動の推進	1 地域コミュニティ機能の強化 2 地域におけるコーディネート機能の強化
4 安心・安全な暮らしの 「環境」 をつくる	1 自立を促す支援の推進	1 生活困窮者等への支援
	2 共に生きるまちづくりの推進	1 地域共生社会の実現に向けた理解の浸透
		2 バリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進 3 外出支援の推進
	3 権利擁護対策の推進	1 権利を守る支援策の利用促進 2 虐待やDVの早期発見・早期対応
4 防災・防犯対策の推進	4 防災・防犯対策の推進	1 災害時に備えた地域体制づくり 2 地域における防犯力の強化



第	4	章				
重	点					
プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	

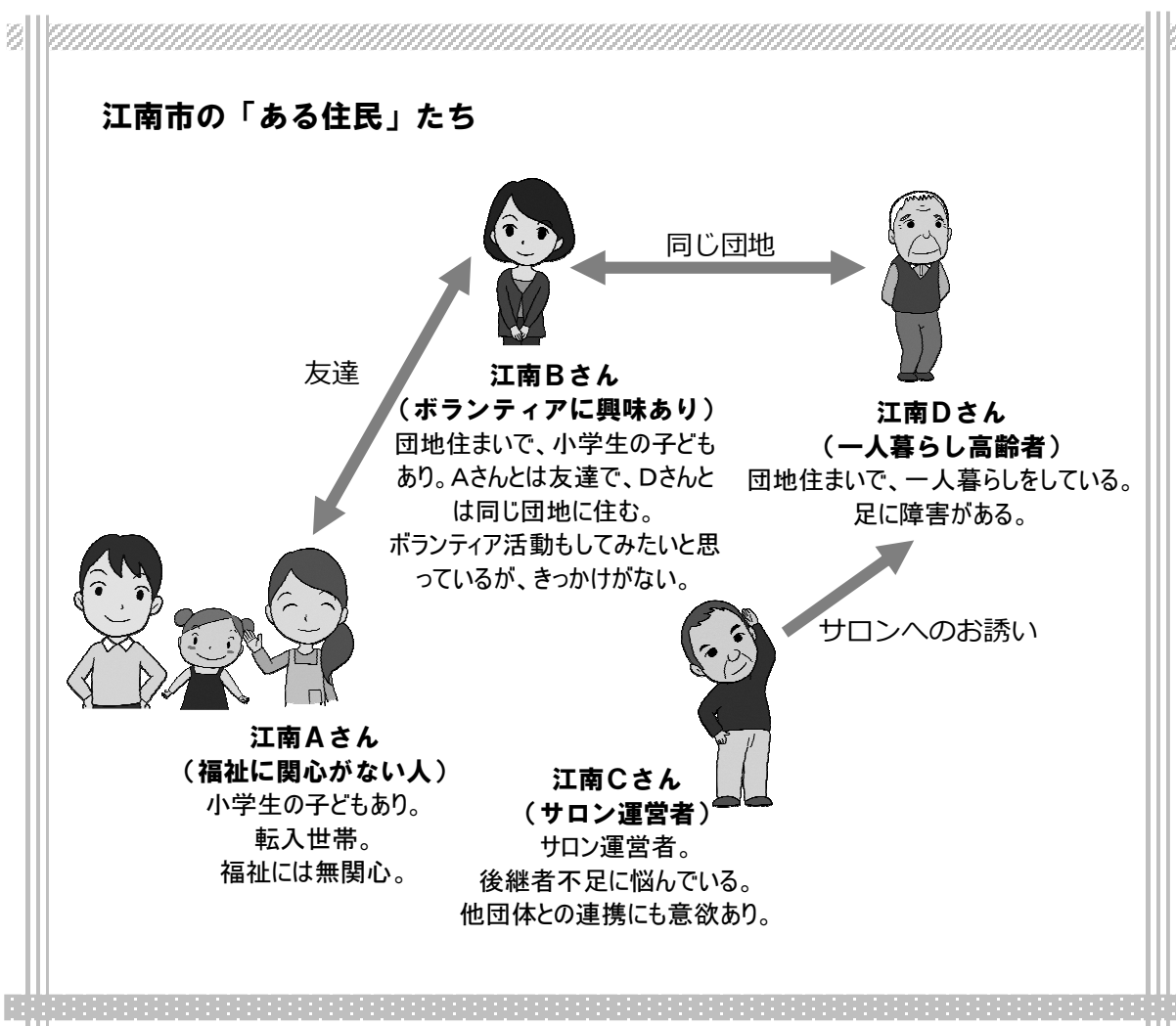


「第4章 重点プロジェクト」の見方

地域には、福祉に興味のない人、地域福祉活動を積極的に行っている人、困りごとを抱えているにも関わらず地域社会から孤立してしまっている人など、様々な人が関わり合いながら暮らしています。

本章では、以下の4人の人をその「江南市に住む“ある住民”」として設定し、それぞれの立場からの現状や課題を「つぶやき」として掲載しています。それを受けて、基本理念で掲げた『みんなで支え、みんなで育む 「しあわせ」なまち 江南』の達成に向けた重点取り組みを掲載しています。

重点取り組みは市や社会福祉協議会の行う取り組みです。「ある住民」たちが実際に江南市で暮らしていることを想像し、自分にできることも考えてみましょう。



■重点プロジェクトの見方

重点プロジェクト

1 子どもも大人も福祉を学び、実践しよう！

ある住民のつぶやき



江南Aさん
(福祉に関心がない人)

友達のBさんから地域福祉のシンポジウムに誘われました。今までは「地域」とか「ボランティア」には全然興味がなかったのですが、シンポジウムなら気軽に参加できるので、行ってみたいかなと思っています。子どもも先日、学校でボランティア活動をしたようです。親子でボランティアに参加してみるのもいいですね。

『みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち 江南』に向けて…

福祉にまったく無関心な人が突然、地域福祉の活動者になるのは難しいですが、少しでも関心のある人に「地域福祉」の情報を届けることで、行動につながり、その行動が無関心な人の興味を呼び起こすこともあります。

重点プロジェクト1では、子どもを対象とした学校における福祉教育を継続して進めつつ、学んだことを地域社会において実践できる機会づくりを進めます。また、地域に新しい層にアプローチするための地域福祉についてのシンポジウムの開催や、大人を学習プログラムを充実し、地域福祉の担い手の拡大につなげます。

■重点取り組み

内容	内容				
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
地域を基盤とした学習機会の充実【市・社会福祉協議会】	地域福祉に関するシンポジウム等の開催により、地域福祉の必要性を江南市内の取り組みを知る機会を設け、地域住民の地域福祉意識の高揚を図る。				
体験や交流を通じた子どもの学びの促進【社会福祉協議会】	子どもが学校や地域のなかで、体験や交流を通じた福祉教育の機会を創出し、福祉意識の醸成を進めるとともに、学びを活かした地域社会ボランティア等の実践を促進する。				
子どもから大人までの学習機会の創出【社会福祉協議会】	小地域福祉活動の基盤づくりを推進するために、子どもから大人までが参加できる各種講座や参加・体験型の学習機会を創出し、地域福祉意識の高揚を図る。				
	継続				
	検討	実施			
	検討		実施		

関連施策

- 1-1-1 地域福祉の重要性についての情報発信 (P.49)
- 1-1-2 福祉教育の推進 (P.50)
- 2-1-2 新たな担い手の確保 (P.59)

【ある住民のつぶやき】

重点プロジェクトに関する江南市の現状や課題を、市民視点で掲載しています。

【『みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち 江南』に向けて…】

「ある住民のつぶやき」を受け、基本理念である『みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち 江南』に向けて取り組む、重点プロジェクトの方向性を示しています。

【重点取り組み】

市と社会福祉協議会の具体的な取り組みを示しています。取り組みの実行性を確保するため、今後6年間の実施スケジュールもあわせて掲載しています。

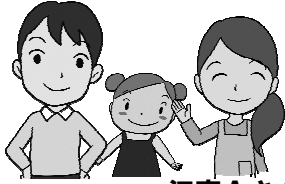
【関連施策】

「第5章 施策の展開」で示す施策との関連を示しています。数字は「基本目標-施策の方向性-施策」の番号に対応しています。

重点プロジェクト

1 子どもも大人も福祉を学び、実践しよう！

 ある住民のつぶやき



江南Aさん
(福祉に関心がない人)

友達のBさんから地域福祉のシンポジウムに誘われました。今までは「地域」とか「ボランティア」には全然興味がなかったのですが、シンポジウムなら気軽に参加できるので、行ってみてもいいかなと思っています。

子どもも先日、学校でボランティア活動をしたようです。親子でボランティアに参加してみるのもいいですね。

『みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち 江南』に向けて…

福祉にまったく無関心な人が突然、地域福祉の活動者になるのは難しいですが、少しでも関心のある人に「地域福祉」の情報を届けることで、行動につながり、その行動が無関心な人の興味を呼び起こすこともあります。

重点プロジェクト1では、子どもを対象とした学校における福祉教育を継続して進めつつ、学んだことを地域社会において実践できる機会づくりを進めます。また、地域において幅広い層にアプローチするための地域福祉についてのシンポジウムの開催や、大人を対象とした学習プログラムを充実し、地域福祉の担い手の拡大につなげます。

重点取り組み

	内容					
地域を基盤にした学習機会の充実【市・社会福祉協議会】	地域福祉に関するシンポジウム等の開催により、地域福祉の必要性や江南市内の取り組みを知る機会を設け、地域住民の地域福祉意識の高揚を図る。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	継続 →					
体験や交流を通じた子どもの学びの促進【社会福祉協議会】	子どもが学校や地域のなかで、体験や交流を通じた福祉教育に取り組み、福祉意識の醸成を進めるとともに、学びを活かした地域社会におけるボランティア等の実践を促進する。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	検討 →		実施 →			
子どもから大人までの学習機会の創出【社会福祉協議会】	小地域福祉活動の基盤づくりを推進するために、子どもから大人までが参加できる各種講座や参加・体験型の学習機会を創出し、地域福祉意識の高揚を図る。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	検討 →			実施 →		

関 連 施 策

- 1-1-1 地域福祉の重要性についての情報発信 (P.49)
- 1-1-2 福祉教育の推進 (P.50)
- 2-1-2 新たな担い手の確保 (P.59)

重点プロジェクト

2 地域福祉を進める「活動主体者」になろう！

ある住民のつぶやき



江南Bさん

(ボランティアに興味あり)

同じ団地のなかに一人暮らしのお年寄りがいて、ときどき世間話をするのですが、言い出せないだけで、ちょっとした支援を欲しがっている人は多いみたいですね。何かできることがあるとよいのですが…。

江南市内にもサロンはたくさんできてきましたが、自分たち以外の地域活動はなかなか見えづらいですね。単体ではできないことも多いので、福祉サービスの事業所や団体が「地域福祉」という視点でつながっていきなるといいと思います。



江南Cさん

(サロン運営者)

『みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち 江南』に向けて…

身近な人の「ちょっとしたお手伝い」も、地域福祉活動のひとつです。「誰かの役に立ちたい」という気持ちと「誰かの手助けが欲しい」「誰かと交流を持ちたい」という気持ちをつなげていくことが大切です。

また、既に地域福祉活動をしている人や、サービス提供事業所などの専門職でも、それぞれの活動範囲のなかで、他の団体等と連携を取れずに活動している人が多くなっています。

重点プロジェクト2では、担い手を育成するとともに、各専門職に対する「地域福祉」の意識を醸成します。

重点取り組み

	内容					
地域福祉の担い手の育成の促進【市・社会福祉協議会】	地域における見守りの輪を広げるための啓発プログラム作成を検討し、市民向けの見守りサポーター養成講座等を開催し、地域福祉の担い手の育成を促進する。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	検討		実施			
ボランティア・市民活動やサロンの担い手のさらなる養成【社会福祉協議会】	地域課題の解決に向けたボランティア・市民活動の参加機会の創出や地域の居場所づくりである「ふれあい・いきいきサロン」の事例集等による啓発活動を行い、担い手のさらなる養成を推進する。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	検討	実施				
関係機関への「地域福祉」の理念の浸透【市・社会福祉協議会】	障害のある人や高齢者、子どもなど各福祉分野における専門職が地域福祉の視点を持って福祉に関する事業に取り組めるよう、講演会等により地域福祉の意識を醸成する。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	実施					

関連施策

- 2-1-2 新たな担い手の確保 (P.59)
- 3-1-1 総合的な相談支援体制の充実 (P.66)
- 4-2-1 地域共生社会の実現に向けた理解の浸透 (P.77)

重点プロジェクト

3 地域がつながり、活動を充実させよう！



ある住民のつぶやき



江南Cさん（サロン運営者）

活動団体はバラバラに活動しています。
顔をあわせて地域のことを話す場が定期的にあるといいなと思います。

もともと障害があったのですが、高齢になって、介護保険サービスに変わりました。

ただ、いろいろ相談したいとき、介護の方に相談すればいいのか、障害の方に相談すればいいのかわかりません。



江南Dさん
（一人暮らし高齢者）

『みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち 江南』に向けて…

地域福祉を取り巻く多様な主体が、「地域福祉」という視点のもとでつながっていくことで、小地域福祉活動の基盤がつくられます。また、多様な主体がつながることで、より多様な課題の解決ができる体制づくりにつながります。

重点プロジェクト3では、地域の関係者が地域の課題を話す場として、地域福祉懇談会を継続的に開催するとともに、地域におけるネットワークづくりを進めます。

重点取り組み

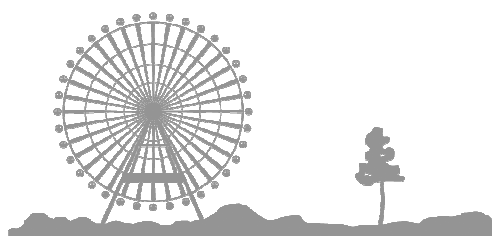
	内容					
協働事業を促進するためのネットワークづくりとコーディネート【市・社会福祉協議会】	地域課題の解決に向けた取り組みが、区・町内会、ボランティア・市民活動団体等の異なる主体間で円滑に進められるよう、交流会等による分野の垣根を超えたネットワークづくりを進めるとともに、各団体の力と個性のコーディネートを推進する。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	検討			実施		
小地域福祉活動の基盤づくりの推進【市・社会福祉協議会】	誰もが参加できる地域福祉懇談会等の定期的な開催により、地域課題の把握や共有、解決に向けた話し合いの場を設け、小地域活動の取り組みを行うための基盤づくりを推進する。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	実施					
ワンストップによる横断的な相談・支援の仕組みづくりへの整備【市】	子どもから高齢者までライフステージに応じた相談・支援を行うために、専門職の確保や市職員のスキルアップや連携体制を構築し、ワンストップによる横断的な相談・支援の仕組みづくりへの整備を行う。					
	平成30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
	検討					実施

関連施策

- 3-1-1 総合的な相談支援の充実 (P.66)
- 3-3-2 地域におけるコーディネート機能の強化 (P.72)



第	5	章	
施	策	の	
展	開		



「第5章 施策の展開」の見方

基本目標 1

福祉の「心」をはぐくむ

施策の方向性 1 地域福祉についての意識の醸成

江南市の状況は？

○地域福祉は行政や社会福祉協議会、地域福祉を推進する各種団体、事業所等、様々な主体が連携・協働しながら進めるものですが、その推進主体は地域に住む市民自身です。しかし「地域福祉」という言葉や概念自体が十分浸透しておらず、健康や暮らしに不自由がなく隣近所との関わりが薄い人などには「他人事」としてとらえられてしまうことが多くあります。地域福祉が誰にとっても身近なものであり、自分や地域にどのような役割が求められているのかを、市民一人ひとりが知ることが大切です。

○アンケートによると、支援が必要な対象を支援していくにあたっての役割分担について、住民もある程度の役割を担うべきであると考えている人が多くなっています。地域福祉についての意識醸成を進めていくことは、市民がどのような役割を担うことができるのかを知り、それを行動につなげていくための第一歩となります。

■支援が必要な対象を支援していくにあたっての、住民や行政、民間企業等の役割分担
(市民意識調査 単数回答)

役割分担	割合 (%)
「住民も役割を担うべき」が7割強	76.8
支援は住民の手によって行うべきで、行政はそれを支援すればよい	23.2

統計やアンケート結果などから、江南市の現状を示しています。

市民の声

福祉に関する情報を知る機会がまだまだ少ない。若い世代でも知る機会があればよいと思う。
(市民意識調査 女性、22歳、古知野西地区)

小・中学校のときから、学校教育として高齢者や障害のある方と自然に接するのが当たり前、手助けするのが当たり前と思ってくれるようになるよ。
(市民意識調査 男性、42歳、布袋北地区)

江南市の現状と課題

- 「地域福祉」を身近に感じられない人が多い。
- 支援についての市民の参画意識は比較的高い。

取り組み目標

地域福祉について知ってもらおう！

施策1 地域福祉の重要性についての情報発信
…わかりやすい、届きやすい表現方法や媒体で情報発信する。

子どもの頃から福祉の心を育む！

施策2 福祉教育の推進
…子どもの福祉意識と実践力を育む。
子どもを通じた大人の福祉意識醸成にもつなげる。

「江南市の現状と課題」と、施策につながる「取り組み目標」を簡潔に示しています。

アンケートやヒアリング調査、地域福祉懇談会の結果から、江南市の現状に関連する「市民の声」を掲載しています。

基本理念である『みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち江南』に向けて取り組む施策内容を示しています。

しあわせに向けてできることは…

施策1 地域福祉の重要性についての情報発信

■市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 福祉についての情報を積極的に収集し、知った情報を周りに伝える。
- 身の回りに困りごとを抱えている人がいないか意識し、その人に何が出来るかを考える。
- 活動主体者は、自分たちの活動情報を発信する。

■市の取り組み

広報こうなん、市ホームページ等による地域福祉に関する情報発信

- 地域福祉の重要性について、広報こうなんや市ホームページにおいて周知・啓発を図ります。
- 地域福祉懇談会を定期的に開催し、地域福祉の重要性について、周知・啓発を図ります。

■社会福祉協議会の取り組み

社協だより等による情報発信

- 社協だよりや社協ホームページによる福祉情報の発信を継続して行います。
- 魅力ある社協だよりに向け検討を重ねるとともに、作成時において様々な活動団体へ取材やインタビューを行い、地域の福祉活動を発信できる社協だよりを作成します。

福祉イベントを通じた地域福祉情報の発信

- ふくし江南ふれあいまつりを通じて、福祉関係者、関係機関、市民活動団体等と連携・協

施策は、「市民・地域（区・町内会や民生委員・児童委員、ボランティアやその他地域活動団体等を含む）」「市」「社会福祉協議会」ごとに掲載しています。

基本目標 1



福祉の「心」をはぐくむ

施策の方向性 1 地域福祉についての意識の醸成



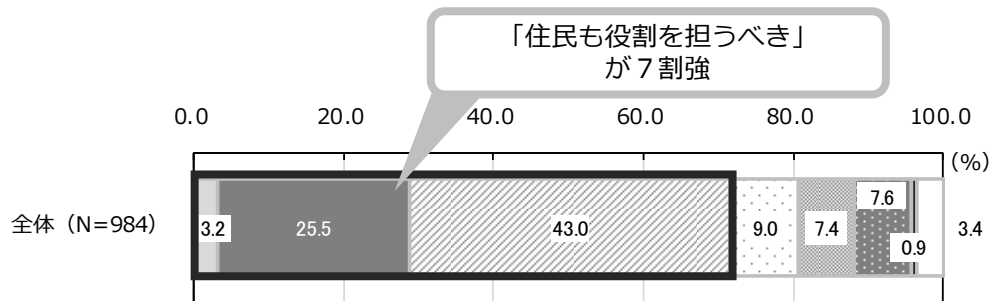
江南市の状況は？

○地域福祉は行政や社会福祉協議会、地域福祉を推進する各種団体、事業所等、様々な主体が連携・協働しながら進めるものですが、その推進主体は地域に住む市民自身です。しかし「地域福祉」という言葉や概念自体が十分浸透しておらず、健康や暮らしに不自由がなく隣近所との関わりの薄い人などには「他人事」としてとらえられてしまうことが多くなっています。地域福祉が誰にとっても身近なものであり、自分や地域にどのような役割が求められているのかを、市民一人ひとりが知ることが大切です。

○アンケートによると、支援が必要な対象を支援していくにあたっての役割分担について、住民もある程度の役割を担うべきであると考えている人が多くなっています。地域福祉についての意識醸成を進めていくことは、市民がどのような役割を担うことができるのかを知り、それを行動につなげていくための第一歩となります。

■支援が必要な対象を支援していくにあたっての、住民や行政、民間企業等の役割分担

(市民意識調査 単数回答)



- 支援は住民の手によって行うべきで、行政はそれを支援すればよい
- 基本的には行政が行い、住民も積極的に関わる
- 基本的には行政が行い、住民もある程度は関わる
- 支援は行政がやるべきで、住民はあまり積極的に関わる必要はない
- 支援は福祉団体や民間企業が行うもので、必要な人はその支援やサービスを利用すればよい
- わからない
- その他
- 不明・無回答

市民の声

福祉に関する情報を知る機会がまだまだ少ない。若い世代でも知る機会があればよいと思う。

(市民意識調査
女性、22歳、古知野西地区)

小・中学校のときから、学校教育として高齢者や障害のある方と自然に接するのが当たり前、手助けするのが当たり前とってくれるようになるとうい。(市民意識調査
男性、42歳、布袋北地区)

江南市の現状と課題

- ! 「地域福祉」を身近に感じられない人が多い。
- ! 支援についての市民の参画意識は比較的高い。

取り組み目標

■ 地域福祉について知ってもらう!

- ↳ 施策1 地域福祉の重要性についての情報発信
…わかりやすい、届きやすい表現方法や媒体で情報発信する。

■ 子どもの頃から福祉の心を育む!

- ↳ 施策2 福祉教育の推進
…子どもの福祉意識と実践力を育む。
子どもを通じた大人の福祉意識醸成にもつなげる。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 地域福祉の重要性についての情報発信

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 福祉についての情報を積極的に収集し、知った情報を周りに伝える。
- 身の回りに困りごとを抱えている人がいないか意識し、その人に何ができるかを考える。
- 活動主体者は、自分たちの活動情報を発信する。

市の取り組み

広報こうなん、市ホームページ等による地域福祉に関する情報発信

- 地域福祉の重要性について、広報こうなんや市ホームページにおいて周知・啓発を図ります。
- 地域福祉懇談会を定期的を開催し、地域福祉の重要性について、周知・啓発を図ります。

社会福祉協議会の取り組み

社協だより等による情報発信

- 社協だよりや社協ホームページによる福祉情報の発信を継続して行います。
- 魅力ある社協だよりに向け検討を重ねるとともに、作成時において様々な活動団体へ取材やインタビューを行い、地域の福祉活動を発信できる社協だよりを作成します。

福祉イベントを通じた地域福祉情報の発信

- ふくし江南ふれあいまつりを通じて、福祉関係者、関係機関、市民活動団体等と連携・協働しながら、市民への啓発、交流の場の提供、ボランティア活動や福祉活動の理解、参加の促進を図ります。

施策2 福祉教育の推進

■ 市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 福祉教育で学んだことを、何かひとつでも地域で実践してみる。
- 福祉教育で学んだことを、家庭や地域に伝える。

|||| 市の取り組み

福祉教育事業の実施

- 児童・生徒が福祉に関心を持つきっかけとして、福祉実践教室の実施（開催）等、障害についての正しい知識を深めるための福祉教育を推進します。

≡≡≡ 社会福祉協議会の取り組み

福祉教育事業の実施

- 当事者やボランティアの協力により、学校で行われる福祉体験学習事業である「福祉実践教室」に講師を派遣します。
- ユニバーサルデザイン^{*}学習や当事者との交流体験を通じた学び等、学校教育における福祉教育ニーズに合わせたプログラムづくりを進めます。
- 継続して福祉協力校を指定し、総合的な学習の時間や学校行事等の授業時間において福祉教育を行います。

^{*} ユニバーサルデザイン

障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。バリアフリーは、障害のある人や高齢者が、生活する上で支障となる物理的な障壁や意識上の障壁を取り除くこと、また障壁が取り除かれた状態のことをいうのに対し、はじめから障壁をつくらないという考え方をユニバーサルデザインという。

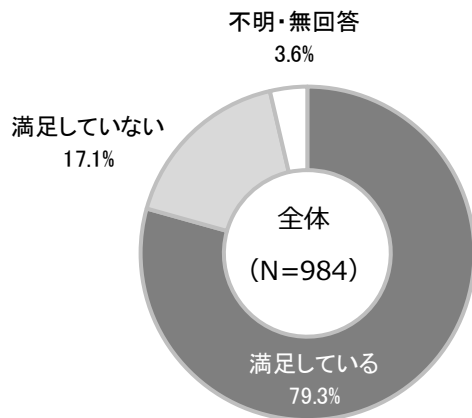
施策の方向性2 地域の関係を深めるきっかけづくり



江南市の状況は？

- 地域でのつながりは、地域福祉活動を進めていくうえでの基盤となります。しかし近年は、核家族化やライフスタイルの多様化などにより、地域の相互扶助力が低下しており、地域と積極的に関わりを持たない人も多くなっています。
- 地域福祉懇談会によると、福祉の担い手が固定化している背景として、新旧住民の交流不足による地域のつながりが限定的になっていることが指摘されています。地域課題の発見機能の強化、福祉の担い手の裾野を拡大していくためにも、転入者も含めた地域でのつながりづくりが必要です。
- アンケートによると、近所付き合いに関する満足度について、満足している人が8割近くを占めています。一方で、満足・不満の理由のどちらにも、近所付き合いの希薄さがあげられており、意識が二極化していることがうかがえます。ちょっとした声かけや見守りの大切さを伝え、交流を促進していく必要があります。

■近所付き合いに関する満足度
(市民意識調査 単数回答)



■満足・不満の理由
(市民意識調査 複数回答・上位3位)

	満足している人 (N=781)	満足していない人 (N=168)
第1位	あいさつをかわす程度の人はいるが、関係が深くないから 53.9%	付き合いのある人が少ないから 40.5%
第2位	付き合いがないといけない人が少なく、気楽だから 23.8%	付き合いのある人はいるが、あいさつをかわす程度で関係が希薄だから 39.3%
第3位	困っているときに頼りになる人がいるから 20.0%	困っているときに頼める人がいないから 28.6%

市民の声

誰もが気軽に参加できるイベントを各地域で行うことによって住民同士の付き合いができると思う。

(市民意識調査
女性、65歳、古知野西地区)

あいさつをはじめ、声をかけあえる地域であれば、いろいろな事業が円滑に運ぶと思う。市民全員の一声から、大きな輪・和になれば素晴らしい。

(活動主体者調査 区長・町総代)

江南市の現状と課題

- ！ 地域のつながりの大切さが地域住民に根づいていない。
- ！ 地域の交流不足は、担い手不足にもつながっている。

取り組み目標

声かけ・あいさつからはじめる！

↳ 施策1 隣近所での顔の見える関係づくり

…あいさつ運動、地域組織への加入促進により関係を深める。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 隣近所での顔の見える関係づくり

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 隣近所とあいさつをする、ちょっとした情報を口頭で伝えるなど、地域との交流を深める。
- 転入者に区・町内会の地域組織加入のお誘いをする。

市の取り組み

あいさつ運動の展開

- 小学校、中学校合同で毎月1回「あいさつの日」を設定するとともに、PTAや民生委員・児童委員と連携してあいさつ運動を行います。

地域組織への加入促進

- 転入者に対し、区・町内会への加入を促進するための案内文書を配布します。

社会福祉協議会の取り組み

地域づくりを通じた顔の見える関係づくり

- 市や地域包括支援センターと連携し、地域をベースにふれあい・いきいきサロンのサポート等を行うなかで、顔の見える関係づくりを進めます。

施策の方向性3 市民が活動・交流できる場の提供



江南市の状況は？

- 本市の世帯構成をみると、核家族世帯の割合が多くを占めており、また単独世帯の割合の増加が顕著であるなど、世帯規模が縮小化しています。
- 団体ヒアリングや地域福祉懇談会では、孤立した子育て家庭へのサポートについての課題、少子化による親子同士の交流の場の不足が指摘されています。また、高齢者の楽しめる交流の場が少なく、特に男性高齢者が閉じこもりがちになるという課題が多くあげられました。
- 子育てについての悩みを共有・相談できず不安を感じている子育て世帯や、閉じこもりがちになっている高齢者が、地域のなかで居場所をつくり、交流を持ちながら安心して暮らしていける環境整備が必要となっています。
- 本市では、高齢者を対象とした「ふれあい・いきいきサロン」や、精神障害のある人の居場所であるフリースペース活動「ハートフレンズ」、親子と一緒に過ごしながら仲間づくり・相談をすることができる「子育て支援センター」などにより、それぞれの居場所づくりを進めています。サロン等の場を周知し、参加を拡大していく必要があります。
- 多世代で交流できる場や機会の不足が課題となっています。年齢、性別問わず気軽に集まれる場や機会を提供していくことが重要です。

市民の声

江南市には地域の住民が集まれる場所が少ない。子どもや高齢者、子育て中の人が自然と顔を合わせ交流できる場が必要。

(市民意識調査 女性、39歳、古知野南地区)

江南市の現状と課題

- ！ 単独世帯の割合の増加により、孤立する家庭の増加が懸念される。
- ！ 多世代交流の場が不足している。

取り組み目標

■ 地域に居場所をつくる！

└ 施策1 高齢者や障害のある人、子育て家庭の居場所づくり

…気軽に集まれる場を地域に増やす。

■ 多世代交流の機会をつくる！

└ 施策2 多世代交流の促進

…世代を問わず参加できる地域での交流の機会を創出する。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 高齢者や障害のある人、子育て家庭の居場所づくり

■ 市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 地域のサロン等に参加し、仲間づくり・交流を楽しむ。
- サロン等の情報を周りの人に伝え、「口コミ」で参加を呼び込む。

市での取り組み

高齢者の居場所づくり

- 高齢者の生きがいづくりとして、活動の場、憩いの場を確保するとともに、利用促進を図ります。
- 各地域における身近な高齢者の活動の場、交流の場を確保するため、社会福祉協議会と協働して、サロン活動に対して積極的に支援します。
- 各地域の公民館・公会堂などに、運動指導の講師を派遣し、身近な地域で運動できる機会を提供します。
- 高齢者の社会参加や自立支援に結びつく事業を支援します。

障害のある人の居場所づくり

- 精神障害のある人の居場所であるフリースペース活動「ハートフレンズ」の運営を支援します。

子育て家庭の居場所づくり

○子育て支援センターにおいて、親子の交流の場・相談支援・仲間づくりの場を提供します。

社会福祉協議会の取り組み

高齢者の居場所づくり

○ふれあい・いきいきサロン事業の活動支援を実施し、支え合い活動を推進します。

○地域の情報収集に努め、身近な地域での高齢者の居場所づくりを進めます。

○ふれあい・いきいきサロン同士の交流機会を設け、活動内容の充実を図ります。

障害のある人の居場所づくり

○精神障害のある人の居場所であるフリースペース活動「ハートフレンズ」の運営を支援します。

施策2 多世代交流の促進

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

○地域で開催されているイベントに参加する。

○地域組織・団体内での活動や、地域の行事、イベントなど、日常的に地域の人と交流できる機会をつくるとともに、多くの人の参加を促す。

○子どもや若者、男性高齢者が参加できる企画など、性別・年齢に配慮した企画を考え、実行する。

市の取り組み

多世代交流の機会の確保

○ボランティア団体等が行う多世代交流の企画について、場の提供等の支援を行います。

○高齢者や子ども、外国籍市民も含めた交流の場の確保を検討します。

社会福祉協議会の取り組み

地域組織における多世代交流の促進

○区・町内会や老人クラブ、子ども会といった地域組織や団体とつながりを持ち、多世代交流が取り込まれるようサポートを行います。

基本目標 2

地域福祉を進める 「人」をつくる

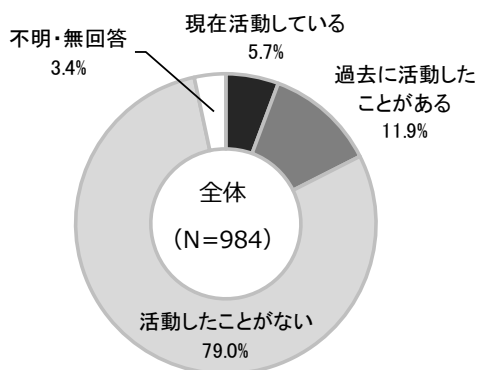
施策の方向性 1 活動の担い手の育成



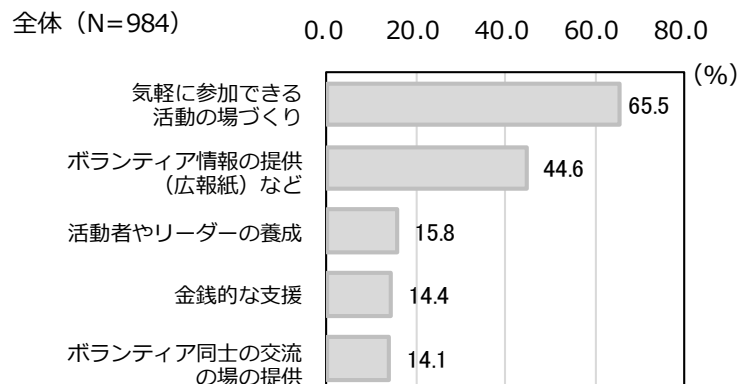
江南市の状況は？

- 本市では「江南市市民自治によるまちづくり基本条例^{*}」や「江南市市民参加条例」を制定し、市民協働によるまちづくりを進めています。しかし、福祉活動の担い手の多くは高齢者であり、メンバーが固定化していることが課題となっています。
- アンケートによると、NPO、ボランティア活動への参加状況は、「活動したことがない」が8割弱となっており、ボランティア活動を盛んにするために必要なことは、「気軽に参加できる活動の場づくり」が最も多く回答されています。活動をしたことがない人を活動につなげるためにも、ボランティアを身近に感じることができるよう工夫が必要となっています。
- アンケートによると、困っている家庭に対してできる手助けとして、いずれの年代でも「非常時の手助け」や「安否確認の声かけや見守り」が多くあげられています。一方で、30歳代以下の人では「短時間の子どもの預かり」が1割程度回答されているなど、年代によってできる手助けに差もみられます。
- 一般的に地域福祉活動の担い手となりづらい65歳未満の高齢期前の世代であっても、きっかけや内容によっては、支援の担い手として活躍できる可能性があります。退職前の世代や、若い世代など、地域との関わりが少ない人への働きかけにより、新たな人材の発掘・育成へとつなげていくことが必要です。

■ NPO、ボランティア活動への参加状況
(市民意識調査 単数回答)



■ ボランティア活動を盛んにするために必要なこと
(市民意識調査 複数回答・上位5位)



^{*} 江南市市民自治によるまちづくり基本条例

江南市におけるまちづくりの基本理念や、まちづくりの担い手の権利・責務や役割など、さらには市政運営の仕組みなどを定めた条例であり、平成23年(2011年)4月1日に施行。

■隣近所で、高齢者や障害者の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があったら、どのような手助けができるか(市民意識調査 複数回答・年齢別上位5位)

	20歳代以下・30歳代(N=195)		40・50歳代(N=331)		60歳代以上(N=421)	
第1位	非常時の手助け	62.1%	安否確認の声かけや見守り	59.5%	安否確認の声かけや見守り	58.0%
第2位	安否確認の声かけや見守り	52.3%	非常時の手助け	51.1%	非常時の手助け	41.8%
第3位	地域の当番や役の引き受け、手助け	26.7%	話し相手	25.1%	話し相手	30.6%
第4位	話し相手	24.6%	地域の当番や役の引き受け、手助け	23.9%	地域の当番や役の引き受け、手助け	20.0%
第5位	短時間の子どもの預かり	10.3%	ごみ出し	12.4%	ごみ出し	17.6%

市民の声

夏休みに1つでもよいので学生がボランティア活動を経験できるようになれば、大人になってからも社会のなかで活かせるのではないのでしょうか。

(市民意識調査
女性、65歳、宮田地区)

退職世代の方に活躍いただく方法として、「3回目の成人式」をし、そこでリタイア生活に向けた事前講習会や男性向けのお料理教室を開催してはどうか。

(地域福祉懇談会)

江南市の現状と課題

- ！ 支援の担い手が固定化している。
- ！ 新たな担い手の育成に向けては、「きっかけ」「気軽さ」が必要。

取り組み目標

■ 地域福祉活動デビューのきっかけをつくる！

↳ 施策1 活動に取り組むきっかけづくり

…活動の情報提供や活動に取り組む意識醸成・動機づけを行う。

■ 新たな「担い手」を発掘する！

↳ 施策2 新たな担い手の確保

…これまで担い手として活躍している人が少なかった層をターゲットに担い手づくりを行う。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 活動に取り組むきっかけづくり

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- ボランティアや市民活動、地域活動についての情報を入手する。
- 自分にできる活動を見つける。
- 友達と誘い合ってボランティアを行う。
- 地域組織や団体は、自分たちの活動をPRするとともに、参加の間口を広げ、活動希望者を受け入れる。

市の取り組み

ボランティア・協働意識の醸成

- 広報こうなんや市ホームページにより、「江南市市民自治によるまちづくり基本条例」及び「市民参加条例」の啓発を行い、活動意欲の高揚を図ります。
- 活動のきっかけづくり、活動意欲の高揚のため、自発性・創意工夫性のある事業に対し公募により補助を行います。

ボランティア情報の提供

- ボランティアに関する情報提供のため、ボランティア講座を開催します。
- NPO・ボランティアガイドブックや市ホームページにより、団体の活動情報や助成金・補助金情報の啓発を行います。

社会福祉協議会の取り組み

ボランティアの育成

- ボランティアセンター登録グループと協力し、ボランティア育成のための各種講座を実施します。
- 市内在住のボランティア活動を行っている人を相談員とし、ボランティアに関する相談や情報提供、ボランティア団体の紹介を行います。

施策2 新たな担い手の確保

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- ボランティア活動に参加したことがない人は、ちょっとしたことでも人の助けになることを知り、できることから始めてみる。
- 子どもや若者が「やってみたい」と思えるボランティア活動を企画する。
- 企業は、従業員による地域貢献活動を推進する。
- 働きながらでもできるボランティア活動など、「ちょっとしたボランティア」を企画する。

市の取り組み

子どもの学びの機会の充実

- 児童・生徒が家庭や地域で行う自主活動を奨励する「子ほめ活動」を推進します。
- 市主催行事等でのボランティア活動への児童・生徒の参加を促進します。

若い世代の地域福祉活動の促進

- 若い世代の活動参画を促進するため、NPO・ボランティア講座を開催します。

高齢者の生きがいつくり、就労支援

- シルバー人材センターと連携し、高齢者の就労機会の確保を進めます。
- 高齢者の知識や技術を地域に還元できる機会をつくとともに、元気な高齢者に地域活動の担い手として活躍してもらえるような機会を確保します。

社会福祉協議会の取り組み

子どもの学びの機会の充実

- 福祉施設、障害者団体、ボランティア団体、子ども福祉塾サポーターと協働し、子ども福祉塾を実施します。
- 中学生、高校生を対象に、夏休み期間中に保育園や福祉施設における福祉体験学習事業を実施します。
- 子どもやその親世代がボランティアへの理解を深められるよう、子どもフェスティバルにおけるボランティア体験活動を実施します。

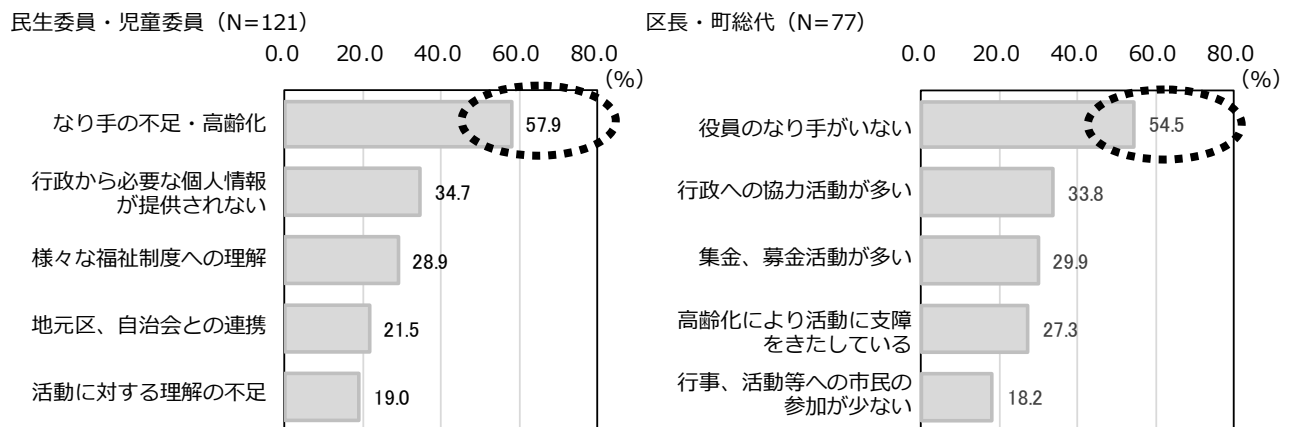
施策の方向性2 福祉を進める活動主体者への支援



江南市の状況は？

- 本市では民生委員・児童委員や区・町内会等の地域組織、NPO・ボランティア団体や市民活動団体等、様々な活動主体者が福祉活動を進めています。しかし、近年の少子高齢化、ライフスタイルの多様化等により、支援を必要とする人が増えていながら、それを支える担い手が増えていかず、一部の活動主体者に負担がかかっているという現状があります。アンケート結果でも、活動上の困りごととして、民生委員・児童委員、区長・町総代のそれぞれで担い手の不足・高齢化が最も多くあげられています。
- 団体ヒアリングによると、活動への参加者の拡大や、そのための情報提供、周知啓発に係る支援が求められています。また、団体活動の今後の方向性として「仲間づくりや交流を中心として進めたい」と回答している団体が多く、団体同士の連携・交流による活動内容の充実を図っていくことが重要です。
- 本市では、市民・協働ステーション、ボランティアセンターにおいて、活動に関する相談支援、情報提供、活動場所の提供等が行われています。

■活動上の困りごと(活動主体者調査 複数回答・上位5位)



市民の声

サービスを受ける側の考え方も変化しており、過去の民生委員が行っていたような活動ができない時代となった。

(活動主体者調査
民生委員・児童委員)

民生委員と区・町内会との連携がないため情報交換できず、活動が限られてしまう。

(活動主体者調査
民生委員・児童委員)

江南市の現状と課題

- ！ 団体活動を活性化するための様々な支援が必要。
- ！ 団体は連携・交流により活動内容の充実を図ることを求めている。

取り組み目標

■ 活動に取り組みやすい環境を整備する！

- └ 施策1 市民・協働ステーション、ボランティアセンターの充実
…市民活動、ボランティア活動の拠点としての機能を強化する。

■ 団体活動の継続・充実を図る！

- └ 施策2 地域福祉活動への支援
…団体間の交流促進や研修機会の提供などにより活動を支援する。
地域福祉の中心的役割を担う民生委員・児童委員の活動活性化に向けた支援を行う。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 市民・協働ステーション、ボランティアセンターの充実

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 市民・協働ステーションやボランティアセンターに登録し、活動を行う。
- ボランティアセンター登録団体は、意見交流会に参加し、団体同士の連携・交流を深める。

市の取り組み

市民・協働ステーションの運営

- 市民協働・市民活動推進協議会において、市民・協働ステーションの利用促進等について協議をし、利用しやすい環境を整備します。

社会福祉協議会の取り組み

ボランティアセンターの運営

- 登録ボランティア団体の活動を支援し、ボランティアニーズを充足します。
- ボランティアセンターの運営委員会を定期的に開催し、ボランティア団体との連携を強化するとともに、ボランティア活動についての課題出しや今後の方向性の検討を行います。
- 関係機関や当事者と新たなニーズの抽出や検討課題についての意見交換を行います。

施策2 地域福祉活動への支援

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- NPOやボランティア団体は、他団体と合同研修会を実施するなど、連携と情報共有体制を強化し、活動内容を充実させる。
- 住民の最も身近な相談役である民生委員・児童委員の役割、活動内容について理解を深める。

市の取り組み

ボランティア・協働意識の醸成

- 活動のきっかけづくり、活動意欲の高揚のため、自発性・創意工夫性のある事業に対し公募により補助を行います。(再掲)

民生委員・児童委員活動への支援

- 福祉制度の研修を行い、地域福祉の課題解決に向けて、連携・協力体制の強化を図ります。
- 愛知県や愛知県社会福祉協議会主催の研修会への積極的な参加を呼びかけます。

社会福祉協議会の取り組み

ボランティア団体への支援

- ボランティア活動や地域での交流イベントの充実のため、資機材の貸し出しを行います。
- 福祉関係団体との連携を強化し、活動内容の充実に寄与できるような支援を行います。
- 活動内容の研究・勉強の場とするため、ボランティア団体同士が連携・交流できる場や機会を提供します。

民生委員・児童委員活動への支援

- 江南市民生委員児童委員協議会の活動を積極的に支援し、地域福祉部会の運営を支援します。

基本目標 3

地域福祉推進の「しくみ」をつくる

施策の方向性 1 必要な人に必要な支援を届けるための体制の充実

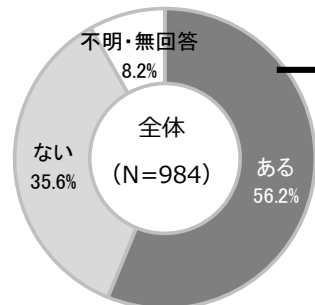
江南市の状況は？

○国では、「我が事・丸ごと」の地域づくりを進めるうえでの方向性として、市町村における包括的な相談支援体制の構築を掲げています。本市においても関係機関の連携強化を進め、ワンストップ的な相談対応ができる体制づくりを進めていく必要があります。

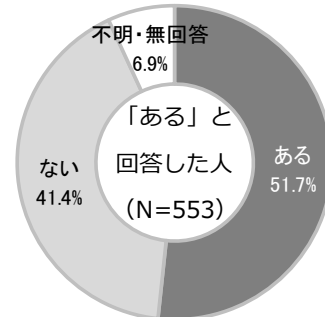
○本市では、市役所窓口をはじめ、地域包括支援センターや基幹相談支援センター等による相談対応を行っています。また、広報こうなんや市ホームページ、社協だよりをはじめとした多様な媒体でサービスについての情報提供を行っています。しかし、アンケートによると、悩みや不安を感じる人がいるうち、相談できる場所がある人は半数程度、また福祉サービスの情報が入手できている人は3割強となっており、支援が必要な人にその情報が十分に届いていない現状がうかがえます。

○各種福祉サービスの多様化が図られていくなかで、量的な充実だけでなく、サービスの周知やサービスの質の向上などにより、利用の円滑化を図っていく必要があります。

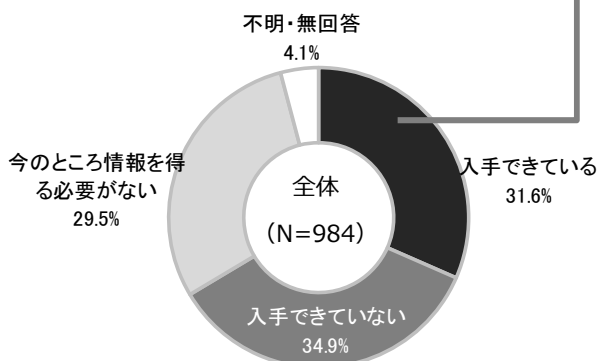
■悩みや不安を感じることはあるか
(市民意識調査 単数回答)



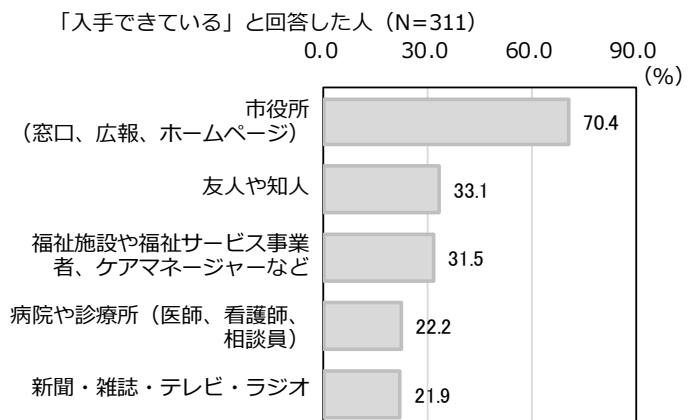
■(ある人のみ)相談できる場所はあるか
(市民意識調査 単数回答)



■必要な「福祉サービス」の情報を入手できているか
(市民意識調査 単数回答)



■(できている人のみ)情報の入手先
(市民意識調査 複数回答・上位5位)



市民の声

福祉サービスを受ける際に、情報の入手程度により格差が生まれているように感じます。
(市民意識調査
女性、54歳、草井地区)

情報はあふれるほどあるのに、どれを選べばよいかわからないという声をよく聞く。
(団体ヒアリング)

江南市の現状と課題

- ！ 相談支援体制は整いつつあるが、相談できる場所がある人は半数程度。
- ！ 福祉サービスを必要としている人に、その情報が十分に届いていない。

取り組み目標

■ 相談対応力を強化する！

- ↳ 施策1 総合的な相談支援体制の充実
…相談員や市職員のスキルアップを図り、相談窓口のネットワーク化を図る。

■ 情報発信力を強化する！

- ↳ 施策2 福祉サービスの利用支援
…必要な福祉サービスを市民が自分自身で選ぶことができるよう、福祉サービスについて多様な媒体を通じて情報発信する。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 総合的な相談支援体制の充実

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 悩みや不安は、一人で抱え込まず身近な人に相談する。
- 身近な人の相談相手になる。
- 自分や家族、身近な人で解決できない困りごとは、専門的な相談窓口を利用する。
- 団体は、地域の困りごとの相談を受けるとともに、必要な関係機関につなげる。

市の取り組み

総合的な相談支援体制の整備

- 地域包括支援センターや基幹相談支援センター等において、相談支援を実施します。
- 総合的な相談体制の仕組みづくりに向け、専門職の確保や市職員のスキルアップを図ります。
- 子どもから高齢者までライフステージに応じた相談・支援ができる体制を検討します。
- 地域生活課題について、包括的に相談を受け止め、福祉サービスに関する利用相談、苦情、権利侵害の相談などができる総合的な相談体制について検討します。

社会福祉協議会の取り組み

相談支援体制の強化

- 市民のあらゆる生活課題に対応するため、ボランティアセンター・地域福祉活動推進部門、障害者相談支援部門、生活困窮者自立相談支援部門、居宅介護支援事業部門、訪問介護事業部門間の連携を強化し、横断的な個別相談支援の体制づくりや地域資源の開発に向けた連携体制の強化を図ります。

施策2 福祉サービスの利用支援

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 福祉サービスが必要な人は、サービスについての情報収集を行い、自分に必要なサービスを選べる力をつける。
- サービス提供事業者は、適切なサービスの提供ができるよう、専門知識の習得や能力の向上に努める。

市の取り組み

福祉サービスにかかわる職員の資質向上

- サービス提供事業者に対し、各種研修への参加を促進し、専門性を確保します。
- サービス提供事業者に対し、定期的に実地指導を行い、質の確保を図ります。

ケースケア会議の開催

- 市単独で解決できないケース、複合的な課題等に対応するため、ケースケア会議を開催し、関係機関との連携、情報共有体制を強化します。

福祉サービスに関する情報発信

- 市内事業所の情報について、多様な媒体で発信します。
- SNS[※]等の新たなコミュニケーションツールを利用した情報発信のあり方について検討します。

社会福祉協議会の取り組み

福祉サービスに関する情報発信

- 社協だよりや社協ホームページによる福祉情報の発信を継続して行います。(再掲)
- SNS等の新たなコミュニケーションツールを利用した情報発信のあり方について検討します。

※ SNS

Social Networking Service(Site)の略。インターネット上で友人を紹介しあって、個人間の交流を支援するサービス(サイト)。誰でも参加できるものと、友人からの紹介がないと参加できないものがある。

施策の方向性 2 多様な主体の参画促進



江南市の状況は？

- 介護サービス提供事業所のみならず、NPOやボランティア団体も含めた多様な主体により介護予防・生活支援サービスを提供する「介護予防・日常生活支援総合事業」（以下、「総合事業※」という。）が、本市では平成29年度から開始されています。
- 総合事業の本質は、公的サービスの提供のみに依存しない地域の創意工夫によるサービス提供体制の確立です。しかし、地域主体のサービス提供体制づくりは、地域づくりのプロセスそのものであり、その構築には地域の理解と参画が不可欠です。
- サービス提供事業所による既存サービスの拡充とともに、地域の理解を深めながら、NPOやボランティア団体の参画促進や、元気な高齢者も含めた新たな担い手づくり等、担い手の裾野拡大に向けた取り組みを進めていく必要があります。

市民の声

地域で進めるといっても、素人が前に立って進めていくことがとてもできない。できる人がいても、周りの協力が得られないと難しい。市や社会福祉協議会に支援を求めている。

(団体ヒアリング)

江南市の現状と課題

！ **地域ぐるみの支援体制を構築し、持続可能なものとしていくために、地域の理解・参画が必要。**

取り組み目標

■ **介護予防・健康づくりを地域づくりにつなげる！**

↳ **施策1 介護予防・健康づくりをきっかけとした地域活動の促進**

…周知・広報、サービス内容の充実を行う。

※ 総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)

市町村が中心となって、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することにより、地域の支え合いの体制づくりを推進し、要支援者等に対する効果的かつ効率的な支援等を可能とすることをめざすもの。

施策1 介護予防・健康づくりをきっかけとした地域活動の促進

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 介護予防や健康づくりの活動に参加する。
- こうなん健康マイレージ[※]に参加する。
- 自分にできる生活支援はないか考える。

市の取り組み

総合事業の周知・広報

- 生活支援コーディネーターや地域包括支援センターと連携し、総合事業についての地域の理解を深めます。
- NPOやボランティア団体に対して、総合事業への参入を促進します。
- 各地域の公民館・公会堂などに、運動指導の講師を派遣し、身近な地域で運動できる機会を提供します。(再掲)

総合事業の充実

- 生活支援コーディネーターや地域包括支援センターと連携し、地域の支え合い活動や住民主体の通いの場づくりを支援します。

社会福祉協議会の取り組み

総合事業の周知・広報

- 関係機関と連携を図りながら、総合事業についての周知・広報を行います。
- 生活支援コーディネーターを地域包括支援センター圏域に配置し、地域の支え合い活動をサポートしながら、総合事業についての周知・広報を行います。

総合事業の充実

- 訪問型サービスの受け手などが、担い手として活躍できるための仕組みを検討します。
- 高齢者の介護予防・健康づくり事業を継続して実施するとともに、ニーズに応じて開催回数を増やすなど、内容の充実を図ります。

[※] こうなん健康マイレージ

本市が平成27年10月より開始した、健康づくりの取り組みを行い、40ポイントを貯めると、県内の健康マイレージ協力店でサービスが受けられる優待カード「まいか」と交換ができる事業のこと。

施策の方向性3 小地域福祉活動の推進



江南市の状況は？

- 地域には様々な悩みや困りごとを抱えている人がいます。その一方で地域のなかで活動している団体には、活動内容がうまく地域に届いていないと感じる団体が多くあり、需要と供給を結びつける手段がないために、うまく支援体制として機能していない場合があります。
- 本市では様々な地域の範囲で取り組みが進められていますが、まとまった単位での組織体制がなく、地域課題の収集やその対策の検討、人的資源も含めた地域資源の状況などを体系的に取りまとめる手段が不足しています。
- 地域課題を把握し、課題解決に向けた取り組みを行うためには、地域間のネットワークづくりが重要です。身近な地域の範囲のなかで関係機関が連携しながら地域課題解決の体制を構築していくための、小地域福祉体制の基盤づくりが必要となっています。

市民の声

需要側の情報収集方法と、供給側の情報提供方法が異なる場合があるため、需要側と供給側が出会える機会をいろいろな方法で設けていくことが必要。
(団体ヒアリング)

地域で情報を伝達する仕組みをつくり、江南市におけるネットワークを活用して生活を支えたい。
(団体ヒアリング)

江南市の現状と課題

！ 地域課題をみつけ、支援につなげる「地域の課題解決力」の向上が必要。

取り組み目標

■ 地域力を向上する！

- ↳ 施策1 地域コミュニティ機能の強化
…地域コミュニティ活動を促進し、地域力を向上する。

■ 小地域福祉活動の基盤をつくる！

- ↳ 施策2 地域におけるコーディネート機能の強化
…地域課題を共有し、支援につなげるための関係機関の連携の場を充実する。

施策1 地域コミュニティ機能の強化

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 「地域コミュニティ」が果たす役割を理解し、自分にできることを考える。
- 地域福祉に関する研修や活動に参加し、リーダーなどの役割を務める。
- コミュニティ・スクール^{*}の取り組みに参加し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる。

市の取り組み

地域におけるリーダーの育成

- 地域におけるコミュニティ活動の主体的・継続的な運営を支援するため、地域リーダーの育成を図ります。

地域と連携した教育の推進

- 地域とともにある学校づくりを進めるため、市内小中学校へのコミュニティ・スクールの導入を進めます。

社会福祉協議会の取り組み

コミュニティ活動の拠点整備

- コミュニティ活動の場として、中央コミュニティセンターなどの有効活用を図ります。
- ふれあい・いきいきサロン等の地域の居場所づくりの活動ができるよう、拠点確保の支援を行います。

^{*} コミュニティ・スクール

学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させる仕組みのこと。

施策2 地域におけるコーディネート機能の強化

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 自分の困りごとを周りに伝え、どのような支援が必要かを共有する。
- 自分にできる生活支援を周りに伝える。
- 活動主体者は、地域のなかでの課題の発見力を強化するとともに、関係機関と連携・協力しながら解決に向けた取り組みを行うことで、地域力を強化する。

市の取り組み

地域の情報収集と共有

- 民生委員・児童委員や生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、活動主体者等がそれぞれの活動のなかで得た地域の情報を共有する場を充実します。
- 地域福祉懇談会を継続実施するとともに、協議体や地域ケア会議等との役割のすみ分けを明確にし、効果的な情報共有・連携強化の場となるよう検討します。

社会福祉協議会の取り組み

地域の情報収集と共有

- 生活支援コーディネーターは、市や地域包括支援センターと連携しながら、地域づくりを進めます。

地域づくりを通じた顔の見える関係づくり

- 市や地域包括支援センターと連携し、地域をベースにふれあい・いきいきサロンのサポート等を行うなかで、顔の見える関係づくりを進めます。(再掲)

基本目標 4



安心・安全な暮らしの「環境」をつくる

施策の方向性 1 自立を促す支援の推進



江南市の状況は？

- 近年、社会経済環境の変化に伴い、全国的に生活保護受給世帯や、生活に困窮する人が増加しています。
- 平成 27 年度からは生活保護に至る前の生活困窮者[※]への支援を強化するための「生活困窮者自立支援制度[※]」が開始されており、本市でも自立相談支援事業[※]の実施、住居確保給付金[※]の支給等に取り組んでいます。
- ひとり親家庭の相対的貧困率[※]の上昇、核家族化により家族の援助が受けられない高齢者の増加なども踏まえ、子どもや高齢者も含めた総合的な貧困対策が必要となっています。
- 近年の経済不況や雇用構造の変化、いじめ問題等の様々な要因により、ニート[※]やひきこもり状態に陥った人の増加が社会問題となっています。
- こういった課題は、様々な要因が重なって生じることが多く、一世帯のなかで複合的な課題を抱えている可能性があります。市民の生活を支える重層的な保護体制の構築が必要となっています。

※ 生活困窮者

現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある人のこと。

※ 生活困窮者自立支援制度

生活困窮者に対し、自立相談支援事業、住宅確保給付金の支給、就労準備支援事業、家計相談支援事業、就労訓練事業、生活困窮世帯の子どもの学習支援、一時生活支援事業などの支援を行う制度のこと。平成 27 年 4 月から開始されている。

※ 自立相談支援事業

生活困窮者自立支援制度の一つ。生活に困りごとや不安を抱えている方が相談する地域の相談窓口。支援員が相談を受けて、どのような支援が必要かを相談者と一緒に考え、具体的な支援プランを作成し、寄り添いながら自立に向けた支援を行う。

※ 住居確保給付金

生活困窮者自立支援制度の一つ。離職などにより住居を失った方、または失うおそれの高い方には、就職に向けた活動をするなどを条件に、一定期間、家賃相当額を支給するもの。

※ 相対的貧困率

厚生労働省の国民生活基礎調査における、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合のこと。

※ ニート

15～34 歳で、非労働力人口のうち家事も通学もしていない人のこと。

江南市の現状と課題

- ！ 複合的な課題を抱えている人は多数いると思われるため、相談支援につながる仕組みが必要。
- ！ 相談者の状況に応じた支援方法やネットワーク体制の整備が必要。

取り組み目標

支援が必要な人の把握、解決、資源開発までの総合支援体制を構築する

施策1 生活困窮者等への支援

…生活困窮者等の発見の仕組みから相談支援への連携、解決に向けたネットワーク体制や資源開発といった総合支援体制を構築する。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 生活困窮者等への支援

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 生活に困窮している人など、地域のなかで困っている人を発見した場合は、地域の民生委員・児童委員等に知らせたり、専門的な相談窓口へ報告する。
- 生活に困窮している、あるいは複合的な課題を抱えている家庭は、家庭内だけで抱え込まず、身近な人や専門的な相談窓口へ相談する。

市の取り組み

生活困窮者への支援

- 生活困窮者の自立に向けて、関係機関と連携しながら総合的な支援体制を構築します。
- 経済的に困窮している家庭について、関係各課や各機関との連携により情報を共有し、支援につなげます。
- 生活困窮家庭の子どもに対する学習支援等を検討します。

社会福祉協議会の取り組み

生活困窮者への支援

- 生活困窮者の自立に向けて、生活困窮者自立支援相談事業として、相談及び自立支援を行います。
- 生活困窮に関する相談者が複合的な課題を抱えている場合に、相談者の状況に応じた支援を行えるよう、関係機関とのネットワークづくりや資源開発を進めます。

施策の方向性2 共に生きるまちづくりの推進



江南市の状況は？

- 「障害者差別解消法[※]」や、『我が事・丸ごと』地域共生社会」の理念に基づき、誰もが適切な配慮のもとで共に生きられる地域をつくっていくことが求められています。
- 本市では認知症高齢者や障害のある人など、支援が必要な人が増加しています。それぞれの福祉制度の枠組みのなかでサービスの充足は図られつつありますが、身近な地域での共生社会の実現のためには、地域住民の一人ひとりに正しい理解が根づき、支え合い、助け合える体制が整備されていることが何より重要です。
- 本市では外国籍の市民も一定程度在住しています。外国籍の市民は言語や文化の違いにより、情報の入手や地域活動への参加などに困難を感じる場合が多く、地域での多文化共生[※]に向けた支援が必要です。
- 地域共生社会の実現に向けては、誰もが地域社会に参加できる手段が確保されていることも重要です。団体ヒアリングや地域福祉懇談会では、移動手段がないために地域参加に困難をきたしている例が多くあげられており、公共交通の利便性の向上や移動支援の充実が求められています。

市民の声

子どもの頃から福祉をきちんと理解し体の不自由な人、老人に恥ずかしながら、声かけ、手助けができることが当たり前となるとよい。
(市民意識調査
女性、54歳、草井地区)

交通手段の不足により、地域活動の活性化に影響が出ている。良い場や活動があっても交通手段がないために参加できない人も多い。
(地域福祉懇談会)

※ 障害者差別解消法

正式名称は「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」で、「差別の禁止」を基本原則とし、差別的取扱いの禁止や、合理的配慮の不提供の禁止を定めている。

※ 多文化共生

国籍や民族の異なる人々が、互いの文化的違いを認めた上で、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

江南市の現状と課題

- ！ 特別な支援が必要な人には、まず地域の理解と協力が大切。
- ！ 移動手段の少なさが地域参加の妨げとなっている。

取り組み目標

■ 理解を深める！

- ↳ 施策1 地域共生社会の実現に向けた理解の浸透
…認知症サポーターの養成や多文化共生、合理的配慮の理念の浸透などに取り組み、地域社会全体で支え合い助け合う体制をつくる。

■ 社会参加を促進するための「障壁」を取り除く！

- ↳ 施策2 バリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進
…施設や情報のバリアフリー化・ユニバーサルデザインを進める。
- ↳ 施策3 外出支援の推進
…交通手段の確保、移送サービスの充実により地域社会への参加を促進する。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 地域共生社会の実現に向けた理解の浸透

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 認知症サポーター[※]養成講座に参加する。
- 「障害者権利条約[※]」や「障害者差別解消法」についての理解を深める。
- 外国籍の市民との言葉や文化の違いについての理解を深める。
- 企業は、障害者雇用の促進に努めるとともに、障害特性を理解し、障害のある人でも働きやすい職場づくりに努める。
- 活動主体者等は、外国籍の人も含めた市民に、地域組織や地域のイベントへの参加を呼びかける。

市の取り組み

認知症高齢者の支援の担い手の育成

- 認知症サポーター養成講座を開催し、認知症高齢者の支援の担い手を育成します。

合理的配慮[※]の提供推進

- 職員対応要領[※]に基づき、全庁的に障害のある人に対する合理的配慮の提供を推進します。
- 事業所や施設に対し、合理的配慮や差別的取り扱いについての事例等を紹介します。

多文化共生の取り組みの推進

- 国籍の異なる人々が互いの文化的な違いを認め合い、多文化共生のまちづくりを進めていけるよう、江南市国際交流協会への活動支援をはじめとした取り組みを推進します。
- 日本語教室を実施し、外国籍の市民の多文化共生に向けた支援を行います。

※ 認知症サポーター

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする人のこと。

※ 障害者権利条約

正式名称は、「障害者の権利に関する条約」で、障害者の人権及び基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的として、障害者の権利の実現のための措置等について定めている。

※ 合理的配慮

障害のある人が他の者と平等な人権や自由を享有するために必要かつ適当な、「均衡を失した負担又は過度の負担」を課さない程度における配慮のこと。

※ 職員対応要領

障害を理由とする差別的解消の推進に関する基本方針に即して、障害者差別解消法に規定する事項に関し、職員が適切に対応するために必要な事項を定めたもの。

福祉教育事業の実施

- 児童・生徒が福祉に関心を持つきっかけとして、福祉実践教室の実施（開催）等、障害についての正しい知識を深めるための福祉教育を推進します。（再掲）

社会福祉協議会の取り組み

認知症高齢者の支援の担い手の育成

- 認知症サポーター養成講座を開催し、認知症高齢者の支援の担い手を育成します。

福祉教育事業の実施

- 当事者やボランティアの協力により、学校で行われる福祉体験学習事業である「福祉実践教室」に講師を派遣します。（再掲）
- ユニバーサルデザイン学習や当事者との交流体験を通じた学び等、学校教育における福祉教育ニーズに合わせたプログラムづくりを進めます。（再掲）
- 継続して福祉協力校を指定し、総合的な学習の時間や学校行事等の授業時間において福祉教育を行います。（再掲）

施策2 バリアフリー[※]化・ユニバーサルデザインの推進

■ 市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解し、施設や情報の利用のしやすさについて考える。
- 企業等は、オフィスの段差の解消等、バリアフリーやユニバーサルデザインに努める。
- 地域福祉団体は情報発信する際に、誰にとってもわかりやすい情報となるよう、文字のサイズや色に配慮するなど、ユニバーサルデザインを心がける。

|||| 市の取り組み

公共施設のバリアフリー化の推進

- 公共施設、公共交通機関や駅前広場のバリアフリー化を進めるとともに、民間施設についてもバリアフリー化が図られるよう周知・PRします。
- 新設する公共施設については、設計段階において「人にやさしい街づくりの推進に関する条例（愛知県条例）」に適合するよう計画します。

情報のバリアフリー化

- 市ホームページにおいては、翻訳サービスや読み上げサービス、文字拡大サービスを導入し、日本語が苦手な外国籍の市民や視覚障害のある人など、誰に対しても情報提供ができるようにします。

≡ 社会福祉協議会の取り組み

情報のバリアフリー化

- 視覚障害のある人への情報提供手段として、ボランティアグループの協力により、広報こうなんや社協だよりの点訳・音訳を行います。
- 小中高等学校の福祉教育プログラムにおいて、ユニバーサルデザインに関する授業に講師を派遣し、体験学習の教材を活用しながら普及を進めます。

※ バリアフリー

障害のある人が社会生活をしていく上で、障壁（バリア）となるものを除去するという意味。

施策3 外出支援の推進

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 地域で協力し、移動に困っている人の手助けをする。
- 買い物や喫茶店に行く人は一緒に声をかけあって外出する。

市の取り組み

公共交通の利便性の確保

- 市のコミュニティタクシー「いこまいCAR[※]」と既存路線バス等を合わせた公共交通により、市内における移動支援を行います。
- 高齢者や障害のある人に対する福祉タクシー料金の助成、自動車改造費の支給により、社会参加や地域イベントへの参加手段の確保を図ります。

社会福祉協議会の取り組み

移送サービスの実施

- 一人での移動が困難な人に対し、ボランティアの協力を得ながら移動支援を行います。

※ いこまいCAR

市民が地域社会に積極的に参加しやすくするために、市内移動の交通手段として、市が平成14年1月から運行しているコミュニティ・タクシー。

施策の方向性3 権利擁護対策の推進



江南市の状況は？

- 近年、高齢者を狙った詐欺などの悪質な犯罪、高齢者や障害のある人、子どもへの虐待やDVなどの社会問題が増加しています。
- 高齢者や障害のある人に対する虐待は、被害者が虐待の事実を伝えることができず、被害が潜在化する可能性があります。また、子どもへの虐待、DVであっても、家庭内の出来事であるため被害が顕在化せず、周りに気づかれぬまま深刻化するケースも多くなっています。
- 本市では、成年後見制度[※]や日常生活自立支援事業[※]により、判断能力が十分でない人の財産保護やサービスの利用支援を行っています。また、虐待やDV等の相談窓口を設置し、関係機関と連携しながら支援を行っています。今後は、各種制度の周知を進め利用の円滑化を図るとともに、権利擁護についての市民の理解を深め、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていく必要があります。

江南市の現状と課題

！ 誰もが権利を侵害されることのない暮らしを送れるよう、消費者被害、虐待やDVの早期発見と、対応策の強化が必要。

取り組み目標

■ 権利を守る制度の認知度を向上し、利用の円滑化を図る！

└ 施策1 権利を守る支援策の利用促進

…権利を守る各種制度を充実するとともに、利用支援を行う。

■ 暴力の根絶に向けた取り組みを進める！

└ 施策2 虐待やDVの早期発見・早期対応

…暴力を許さない意識の醸成、地域におけるDV発見機能の強化、関係機関との連携強化による早期対応に向けた体制づくりを進める。

※ 成年後見制度

認知症、知的障害、精神障害などにより物事を判断する能力が十分でない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）を選ぶことで、本人を法的に支援する制度。

※ 日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活を送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助等を行う事業のこと。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 権利を守る支援策の利用促進

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 成年後見制度や日常生活自立支援事業の制度を知り、必要に応じて利用できるよう理解を深める。
- 消費者被害にあわないよう情報収集に努める。また、周りとも情報交換し、被害が広がらないようにする。

市の取り組み

成年後見制度の実施

- 判断能力が十分でない人に対して財産保護やサービスの利用支援を行う成年後見制度について、制度の周知を推進し、利用の円滑化を図ります。
- 社会福祉協議会に設置している江南市成年後見センターに対して支援します。
- 成年後見制度の利用が必要な人を発見し、本人に身近な親族、福祉・医療・地域の関係者と後見人がチームとなって、適切に必要な支援につなげる地域連携の仕組みを検討します。
- 必要な人が成年後見制度を利用できるよう、保健・医療・福祉の連携だけでなく、司法も含めた連携を図ります。

消費者被害等についての相談支援

- 消費生活センターにおいて、専門相談員による市民への消費生活相談を実施します。
- 消費生活センターを周知し、利用の促進を図ります。

社会福祉協議会の取り組み

日常生活自立支援事業の実施

- 判断能力が十分でない人が自立した生活を送れるようサービスの利用支援等を行う日常生活自立支援事業について、事業の周知を推進し、利用の円滑化を図ります。
- 認知症高齢者の増加などにより利用者の増加が推測されるため、支援体制の強化に向けた人員の確保を進めます。

成年後見センターの運営

- 江南市成年後見センターにおいて、後見人等の受任や成年後見制度の相談支援を実施します。
- 権利擁護の支援が必要な人を早期発見できるよう地域の見守り体制を構築します。
- 日常生活自立支援事業との連携を図り、必要に応じて成年後見制度への移行を進めます。

施策2 虐待やDVの早期発見・早期対応

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 虐待やDVを発見した際には、必ず通報する。
- 虐待やDVを受けている場合は一人で抱え込まず、周りの人、専門的な相談窓口など、自分が相談できるところに伝える。
- 地域組織などが虐待やDVについての相談を受けたり発見した場合、個人情報に配慮しつつ専門相談窓口伝え、二次被害を防ぐ。

市の取り組み

DV防止に関する啓発・情報提供の推進

- 市民に対し、暴力根絶に関する講演会や、広報こうなん、市ホームページなどによりDVや虐待等の暴力防止の啓発、各種相談窓口の情報提供を行い、市民の意識の向上と配偶者やパートナーへの暴力を許さない環境づくりを進めます。

DV等に関する相談

- DVの被害が潜在化しないよう、相談窓口を充実するとともに、広報こうなんや市ホームページによる相談窓口の周知を進めます。
- 相談にあたっては、匿名相談や個室での相談対応など、個人情報の保護を徹底します。
- DVの二次被害を防ぐため、相談担当者及び関係職員に対するDVの知識の普及を図り、資質の向上に努めます。

関係機関との連携強化

- DVの被害者に対する支援について、市内での連携体制を強化し、適切な対応を図ります。
- 県や関係機関との連携のもと、DV等被害者の状況に応じた生活支援を行います。

社会福祉協議会の取り組み

虐待の未然防止、早期発見

- 高齢者や障害のある人の支援を行うなかで、関係機関と情報共有し、虐待の未然防止や早期発見にかかる取り組みを行います。

施策の方向性 4 防災・防犯対策の推進



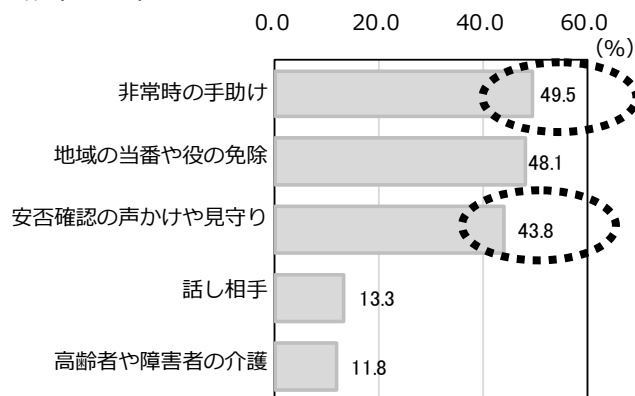
江南市の状況は？

○アンケートによると、近所の人にしてほしい手助けとして、非常時の手助けや見守りが多くあげられています。また、地域のつながりが必要だと感じるタイミングについて、災害や防犯といった安心・安全づくりの面での項目が多くあげられており、防災・防犯面における地域力の重要性について市民も認識を深めていることがうかがえます。

○緊急時における地域力の発揮のためには、平常時から見守り・支え合いの体制づくりを行っていることが大切です。地域に住む一人ひとりが地域を支える担い手であることを認識し、見守り・安心・安全なまちづくりに参画することが重要です。

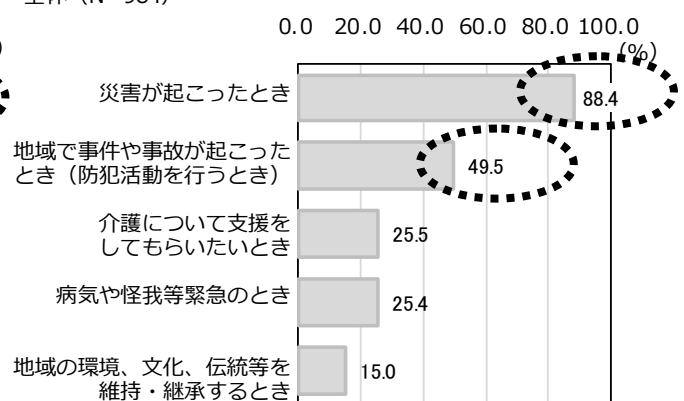
■自分や家族が困ったときに地域の人にしてほしい手助け (市民意識調査複数回答・上位5位)

全体 (N=984)



■地域のつながりが必要と感じるとき (市民意識調査複数回答・上位5位)

全体 (N=984)



市民の声

近い将来起こりうる災害に備え、近隣とのつながり、助け合いは必要なのですが、昔のような付き合いは少なくなってきた感じがします。

(市民意識調査
女性、54歳、古知野南地区)

毎年各地で防災訓練は行われているが、いざというときの行政あるいは地域単位での救助の制度はどうなっているのかがわからない。

(活動主体者調査
民生委員・児童委員)

！ 地域力が、防災・防犯に寄与することを意識している市民が多い。

取り組み目標

「意識」から「行動」に移す市民を増やす！

- 施策1 災害時に備えた地域体制づくり
…平時からの備え、災害時の自助・共助・公助の役割分担についての意識を醸成する。災害時支援の担い手を育成する。
- 施策2 地域における防犯力の強化
…一人ひとりの防犯意識を向上する。地域における見守りの輪を広げる。

◎防災の分野では、近隣や地域の人々が協力して、災害に備えることを「共助」といいます。



「しあわせ」に向けてできることは…

施策1 災害時に備えた地域体制づくり

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 食料や生活物資の備蓄など、平常時から災害対策を行う。
- 隣近所に住む高齢者や障害のある人、妊婦、乳幼児、外国籍の市民などの避難行動要支援者の状況を把握する。

市の取り組み

避難行動要支援者の把握と支援体制の確立

- 避難行動要支援者名簿を整備し、活用します。
- 民生委員・児童委員により作成された「災害時要援護者リスト・マップ」や、独居老人及び高齢者世帯の状況を把握する「生き生きライフカード」を活用し、地域支援体制の強化を推進します。

災害に備えた環境の整備

○災害ボランティアコーディネーター^{*}を養成し、災害ボランティアによる支援体制を整備します。

地域の防災力の強化

○自主防災組織^{*}による防災訓練を支援し、防災力の向上に努めるとともに、訓練の場を通じた要配慮者^{*}への支援についての啓発を行います。

災害に対する意識の醸成

○災害対応力の意識啓発を図る講座の開催などを通じて、災害時における自助・共助・公助の役割分担意識を醸成します。

○広報こうなんや市ホームページを通じて家具転倒防止資機材整備費等の補助制度の啓発を行い、平常時から災害対策を行うよう促します。

≡ **社会福祉協議会の取り組み**

災害に備えた環境の整備

○災害時におけるボランティアの受け入れを円滑に行うため、災害救援ボランティアセンターの運営に向けた体制づくりを行います。

^{*} ボランティアコーディネーター

ボランティア活動を行いたい人とボランティアを必要とする人・組織などをつなぐ専門職、またはその立場のこと。

^{*} 自主防災組織

自分たちの命は自分たちで守るという「自主防災」あるいはコミュニティに根差して取り組むという「地区防災」の取り組みの中心的な役割を担う組織のこと。

^{*} 要配慮者

障害のある人や高齢者、乳幼児等の防災施策において特に配慮を要する人のこと。

施策2 地域における防犯力の強化

市民・地域はこんなことから始めてみよう！

- 子どもや高齢者を対象とした犯罪を防ぐため、地域で見守り、声かけをする。
- 消費者被害にあわないよう情報収集に努める。また、周りとも情報交換し、被害が広がらないようにする。(再掲)
- 地域安全パトロール隊に参加する。

市の取り組み

防犯活動の推進

- 関係機関と連携し、振り込め詐欺等に対し、防犯啓発を行います。
- 地域安全パトロール隊に対し、地域の犯罪発生状況や対処方法の情報提供を行い、防犯意識の向上を図ります。

見守りの輪の拡大

- 事業所と見守り協定を締結します。
- 見守り事業者連絡会を開催し、連携を深めます。
- 消費者被害防止のため、関係部署と連携しながら、地域全体で高齢者を見守る体制づくりを進めます。

社会福祉協議会の取り組み

地域住民による見守り活動の活性化

- サロン等の居場所づくり活動、認知症の啓発活動を通じて、見守りボランティアの活動につなげます。

